

国鉄連絡駅	線名	区間	キロ程	単複線別	動力	軌間	免、特許年月日	運輸開始年月日	営業の種別	摘要
			km			m				
金沢	浅野川線	北鉄金沢・粟ヶ崎海岸	10.0	単	電気	1.067	大正12・5・25 昭和3・6・23	大正14・5・10 昭和4・7・14	旅客・貨物	粟ヶ崎・粟ヶ崎海岸間は夏季のみ営業
西金沢	石川線	白菊町・加賀一の宮	16.7	"	"	"	大正2・4・22	大正4・6・22	"	
寺井	能美線	新寺井・鶴来	16.7	"	"	"	大正12・6・20 大正15・5・24	大正14・8・13 昭和7・1・16	"	
西金沢	金名線	白山下・加賀一の宮	16.8	"	"	"	大正14・5・8	大正15・2・1 昭和2・6・12	"	
大聖寺	山中線	山中・新大聖寺	8.9	"	"	"	明治31・7・4	大正2・3・8	"	
	連絡線	河南・粟津温泉	10.7	"	"	"	大正2・6・18	大正3・10・1 大正3・11・1	"	
動橋	動橋線	宇和野・新動橋	3.4	"	"	"	明治39・5・5	明治44・3・5	"	
粟津	粟津線	粟津温泉・新粟津	3.5	"	"	"	明治40・11・12	明治44・3・5	"	
動橋	片山津線	動橋・片山津	2.7	"	"	"	大正11・2・17	大正11・11・23	"	
小松	小松線	小松・鶴川遊楽寺	5.9	"	"	"	大正15・3・22	昭和4・5・15	"	
羽咋	能登線	羽咋・三明	25.5	"	"	"	大正9・11・20	大正14・3・3 昭和2・6・30	"	

ほくりくせん 北陸線 北陸本線のほかに、これから分岐する柳ヶ瀬線、小浜線、三国線、七尾線、城端線、氷見線、新湊線および富山港線の8支線を含む総称。線名はむかしの五畿七道の1たる北陸道をとっているので名付けた。(森 梯寿)

ほくりくてつどう 北陸鉄道

1 事業者の概要

名称 北陸鉄道株式会社、本社 金沢市上胡桃町、資本金 38,250 万円、おもな事業 地方鉄道 120.8km、軌道 19.6km、一般乗合旅客自動車運送 84.7 km。鉄道・軌道従事員 1,408 人、保有車両 機関車6 (電気 4、蒸気 1、内燃 1) 電動客車 101、内燃動客車 4、客車 25、貨車 85 両。

沿革 昭和 17・3・26 現在の石川線、松金線、金沢市内軌道を経営する金沢電気鉄道株式会社 (大正 5・10・29 設立) と、能美線を経営する能美電気鉄道株式会社 (大正 12・9・9 設立) とが合併し、北陸鉄道株式会社設立、同 18・10・13 戦時中の企業整備により石川県下の北陸鉄道外 6 社が合併、新たに北陸鉄道株式会社設立、さらに同 20・8 小松電気鉄道 (小松線) を、同年 12 月浅野川電気鉄道 (浅野川線) を合併し現在に至る。

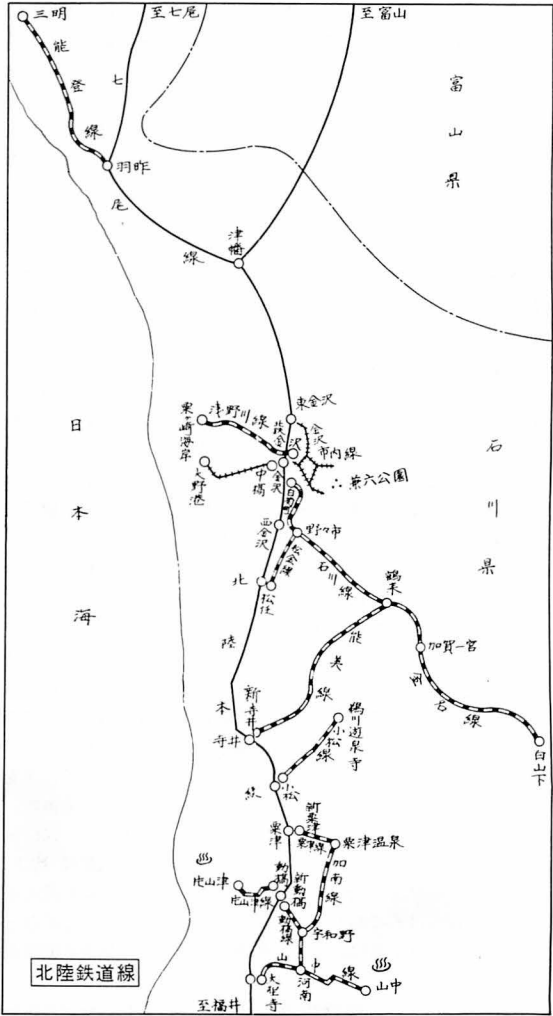
昭和 18 年合併の 6 社は、能登鉄道 (能登線)、温泉電軌 (山中線、動橋線、粟津線、片山津線、連絡線)、金名鉄道 (金名線) 金石鉄道 (金石線)、湯涌自動車、七尾交通である。

2 地方鉄道線 (上表)

3 軌道線 (下表)

4 運輸概況 (地方鉄道)

年度	昭和 28	29	30
旅客輸送人員 (千人)	15,007	15,239	15,908
人キロ (千)	90,088	91,746	95,928
貨物輸送トン数 (千t)	289	267	284
トンキロ (千)	2,898	3,007	2,876
旅客収入 (千円)	227,300	242,633	253,139
貨物収入 (〃)	43,689	44,501	43,073
運輸雑収 (〃)	3,378	2,940	3,417
収入合計 (〃)	284,368	290,073	299,629
営業費 (〃)	279,900	296,833	316,832
営業利益 (〃)	4,468	△ 6,759	△ 17,203
営業係数 (%)	98	102	103



線名	区間	キロ程	単複線別	動力	軌間	免、特許年月日	運輸開始年月日	営業の種別	摘要
		km			m				
金沢市内線		12.4	複 (2km 単)	電気	1.067	明治45・6・28 昭和19・4・18	大正8・2・2 昭和20・11・18	旅客	併用 (1部2.3km新設)
金石線	中橋・大野港	7.2	単	"	"	明治30・6・3 大正9・8・22	明治31・2・5 大正12・8・22	旅客貨物	併用 (1部2.6km新設)